

「ゆ」から世界を新しく。

**GOKURAKUYU**  
**HOLDINGS**

# 2021年3月期第2四半期 決算説明

2020年11月13日

(東証JASDAQ コード：2340)

株式会社極楽湯ホールディングス

本資料は、株式会社極楽湯ホールディングスの事業および業界動向に加えて、株式会社極楽湯ホールディングスによる現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまとっています。既に知られた、若しくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社極楽湯ホールディングスは、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2020年11月13日現在において、利用可能な情報に基づいて、株式会社極楽湯ホールディングスによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではございません。

お問い合わせ先: [ir@gokurakuyu.ne.jp](mailto:ir@gokurakuyu.ne.jp)

# 1. 2021年3月期第2四半期 決算概要

---

- 1、日本は、全店営業で通常営業を再開  
飲食利用控えも見られ、集客・売上が落ち込むも  
「鬼滅の刃」効果と緩和で客足は戻りつつある
- 2、中国は、武漢1店舗を除き営業を再開  
コスト削減の徹底により前年同期より赤字幅縮小
- 3、直営店フランチャイズ化など業績向上へ取り組み
- 4、ファシリティ型新株予約権の実行
- 5、金融機関と協議し資金繰り悪化について対応

# 2021年3月期第2四半期 決算ハイライト

5

- ①売上高は、前年同期比39.6%減の4,304百万円（2,823百万円の減少）
- ②営業利益は、前年同期に比べ918百万円減少し1,220百万円の営業損失
- ③経常利益は、前年同期に比べ366百万円減少し985百万円の経常損失
- ④親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べ837百万円減少し1,246百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失

(単位：百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主帰属 四半期純利益
21年3月期 2Q実績		4,304	▲1,220	▲985	▲1,246
20年3月期 2Q実績		7,128	▲301	▲619	▲409
前年 同期比	増減率	▲39.6%	—	—	—
	増減額	▲2,823	▲918	▲366	▲837

# 【日本・中国】セグメント売上高と利益又は損失

- ①日本は、売上高が前年同期比35.8%減の3,996百万円（2,229百万円の減少）  
セグメント損失831百万円は、前年同期セグメント利益194百万円より  
マイナス1,025百万円
- ②中国は、売上高が前年同期比66.1%減の309百万円（605百万円の減少）  
セグメント損失303百万円は、前年同期セグメント損失399百万円より  
プラス95百万円

(単位：百万円)

		売上高				セグメント利益			
		日本	中国	調整	計	日本	中国	調整	計
21年3月期 2Q実績		3,996	309	▲1	4,304	▲831	▲303	▲85	▲1,220
20年3月期 2Q実績		6,225	914	▲11	7,128	194	▲399	▲97	▲301
前年 同期比	増減額	▲2,229	▲605	9	▲2,823	▲1,025	95	11	▲918
	増減率	▲35.8%	▲66.1%	－	▲39.6%	－	－	－	－

# 【日本】セグメント 四半期毎の状況

①1Qは、営業自粛や営業時間短縮により売上が前年より大きく減少  
②売上減にもかかわらず補償見込み人件費や固定費が重く損失が拡大

①2Qは、営業再開後に「鬼滅の刃」コラボ実施し、売上が1Qより回復  
②売上回復と合わせ賃料減額(6-7月)等のコスト削減で損失抑える

(単位：百万円)

		1Q 4-6月	2Q 7-9月	累計
21年3月期 2Q実績	売上	1,306	2,689	3,996
	セグメント利益 又は損失	▲819	▲12	▲831
20年3月期 2Q実績	売上	2,818	3,406	6,225
	セグメント利益 又は損失	▲17	212	194
増減	売上	▲1,511	▲717	▲2,228
	セグメント利益 又は損失	▲801	▲224	▲1,025

# 【中国】セグメント 四半期毎の状況

①1Qは、例年閑散期にあたり例年赤字  
 ②1Qは、直営・長春のみ営業再開したが前年に比べ売上があまりない状況  
 ③1Qは、他3店含め、資金の支出やコストを抑えることに徹底した結果、前年の赤字幅を抑えることが出来た

①2Qは、1Q同様に例年閑散期に当たる  
 ②2Qは、直営では上海2店も営業再開し売上が1Qより大きく回復した  
 ③2Qは、営業再開に加え武漢店のFC化や資金調達、新規FC契約も取り組む

(単位：百万円)

		1Q 4-6月	2Q 7-9月	累計
21年3月期 2Q実績	売上	57	252	309
	セグメント利益 又は損失	▲187	▲115	▲303
20年3月期 2Q実績	売上	496	418	914
	セグメント利益 又は損失	▲203	▲195	▲399
増減	売上	▲438	▲166	▲605
	セグメント利益 又は損失	16	79	95

前期に比べ、当期は **円高元安** で推移



2020年9月30日  
1元=15.52円

平均レート (円/元)

	1Q	2Q	3Q	4Q
2021年3月期	<b>15.18</b>	<b>15.26</b>	-	-
2020年3月期	<b>16.15</b>	<b>15.74</b>	<b>15.65</b>	<b>15.65</b>

# 営業外損益と特別損益について

10

## 営業外損益

(単位：百万円)

主なもの		金額	説明
1.	為替差益	51	前期末と当四半期末の為替レートの差異
2.	助成金収入	234	休業補償・雇用調整助成金などの入金
3.	支払利息	58	銀行などからの借入利息

## 特別損益

(単位：百万円)

主なもの		金額	説明
1.	事業譲渡益	137	全額、武漢店FC化＝債務の圧縮
2.	保険解約返戻金	44	全額、従業員生命保険（福利厚生）の解約
3.	減損損失	449	武漢店FC化＝121百万円（店舗建物等） 杭州＝328百万円（建設仮勘定）
4.	貸倒引当金繰入額	68	宮崎店FC化＝53百万円（建設協力金） 杭州＝15百万円（出店予定店舗の保証金）

- ①総資産は、前年同期比9.5%減の19,466百万円（2,043百万円の減少）
- ②純資産は、前年同期比32.3%減の2,683百万円（1,282百万円の減少）
- ③自己資本比率は、前年同期四半期末が16.5%に対し、当四半期末が12.3%
- ④ 1株あたり純資産は、前年同期比33.3%減の141円79銭（70円83銭の減少）

（単位：百万円）

		総資産	純資産	自己資本比率	1株あたり純資産
<b>21年3月期 2Q実績</b>		<b>19,466</b>	<b>2,683</b>	<b>12.3%</b>	<b>141円79銭</b>
<b>20年3月期 実績</b>		21,510	3,966	16.5%	212円62銭
<b>前期比</b>	<b>増減率</b>	▲9.5%	▲32.3%	▲4.2%	▲33.3%
	<b>増減額</b>	▲2,043	▲1,282	—	▲70円83銭

# キャッシュ・フロー計算書

新型コロナの影響により、投資を控え、資金流出を出来る限り抑えた

(単位：百万円)

	20年3月期 2Q実績	21年3月期 2Q実績	増減
営業活動CF	998	▲351	▲1,349
投資活動CF	▲1,471	▲327	+1,143
財務活動CF	1,306	247	▲1,058
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲64	5	+70
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	768	▲426	▲1,194
現金及び現金同等物の期首残高	2,792	4,989	+2,197
現金及び現金同等物の期末残高	3,561	4,563	+1,002

## 引き続き、経営基盤の強化・安定に努めてまいります。

＜2020年3月期第2四半期 決算短信〔日本基準〕（連結）及び 四半期報告書 より＞

当社グループは、前連結会計年度において新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、中国連結子会社における臨時休業や日本での外出自粛要請等によって売上高が減少し、減損損失等の特別損失の計上をしたことにより3,264百万円の親会社株主に帰属する当期純損失を計上いたしました。この業績悪化に伴い、シンジケートローンの借入契約に付されている財務制限条項に抵触いたしました。取引先金融機関と協議した結果、当面の返済について猶予頂くことをご承諾いただきました。

しかしながら、当連結会計年度の開始以降、日本の店舗でも臨時休業を余儀なくされ、営業再開に至ったものの以前のような集客に戻っていない状況であり、手元流動性の確保に支障が生じる可能性が引き続きあることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

これらの状況を解消するため、当社グループでは、営業再開及び収益向上策の実施、コスト削減、緊急経済対策に基づく税金や社会保険料の納税猶予制度及び助成制度の活用、取引金融機関への継続的支援の要請、既存店の譲渡、財務体質改善のための資本政策の検討など、継続して取り組みしてまいります。

日本及び中国、いずれの国においても固定費などの費用については、役員報酬や給与等の減額、従業員の適正配置や雇用調整助成金の活用、支払賃料等の減額の要請、諸経費の見直しを行い、コスト削減に努めつつ、お客様及び従業員並びに関係者の安全を十分に確保した上で、それぞれの店舗の営業を再開しております。

資金面については、手元流動性の確保に努めるべく、当座借入契約の活用と並行して、全ての取引金融機関と協議を行い、返済期限が到来する借入契約について、今後の店舗の再開状況や集客、収益性に合わせて返済条件の見直しを行いました。現在も取引金融機関と緊密な関係を維持し、継続的な支援が得られるよう相談や交渉を継続しております。7月には財務体質改善のため第三者割当による新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項付）を締結し、資本政策に取り組みました。7月から9月の期間限定にて、国内直営店を中心に「鬼滅の刃」コラボイベントを実施し、限定のグッズ販売や飲食メニューが一時品切れになるほどの大変人気となりました。このような人気コンテンツとのコラボ企画を今後も数多く実施することで集客及び売上に大きく貢献できるように取り組みしてまいります。また、中国でも営業再開を見合わせていた中国湖北省武漢市にある「極楽湯金銀潭温泉館」の経営権を中国企業に譲渡し、フランチャイズ化を進めることで負債を圧縮しております。これに限らず諸施策を遂行することで、当該状況を早期に解消し、当社グループの経営基盤の強化・安定に努めてまいります。

この結果、当社グループには、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

- ①外出自粛の緩和が見られるも、まだ先行き不透明な状況が続くと予想
- ②新型コロナウイルス感染症の第3波、クラスター等もありうる  
対処すべき課題に取り組むことで経営基盤の安定、業績の回復等に努める
- ③連結業績見通しは、引き続き未定とする
- ④2021年3月期の配当は、無配とする

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主帰属 当期純利益
21年3月期 予想	未定	未定	未定	未定
20年3月期 実績	14,597	▲348	▲707	▲3,264

## 2. 国内の取り組み

---

# 【国内】①株主優待券の有効期限の延長

<5月27日 お知らせ>

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、一部店舗において臨時休業及び営業時間の短縮といった対策を行ってまいりました。

このような状況を鑑み、株主様のご利用機会確保を目的として、現在有効である株主優待券の期限を、**1年間延長**

**2020年11月30日期限 ⇒ 2021年11月30日期限**



## 【国内】 ②新株予約権発行とファシリティ契約締結 17

<7月8日 お知らせ>

S M B C日興証券株式会社を割当予定先として第三者割当により新株予約権を発行すること及び金融商品取引法に基づく本新株予約権に関する届出の効力発生後にファシリティ契約を締結

- |     |              |                     |
|-----|--------------|---------------------|
| (1) | 割当日          | 2020年7月27日          |
| (2) | 発行新株予約権数     | 4万個                 |
| (3) | 発行価額         | 1個当たり155円(総額62万円)   |
| (4) | 当該発行による潜在株式数 | 潜在株式数：4百万株          |
| (5) | 調達資金の額       | 14億9,420万円(差引手取概算額) |
- (内訳) 本新株予約権の払込金額の総額620万円  
本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額1,496百万円  
発行諸費用の概算額8百万円

**これにより、2020年10月末までに約1.8億円の資金を調達**

<8月17日 お知らせ>

各種コラボ施策と同様に極楽湯、RAKU SPA、RAKU CAFEなどの温浴施設及び娯楽施設を利用するきっかけとファン作りのために、Funds上での優待券付ファンドを提供するための提携となります。

当社にとってインターネットを活用した資金調達新しいチャレンジです。これまで全国津々浦々にお風呂を作りファンを増やしていく戦略をとってまいりましたが、今回のチャレンジを通じ、ファンとなって応援して下さる方との新しい関係を築くことができると考えております。



- 第1回募集 RAKU CAFEファンド#1  
「RAKU CAFE 門前仲町」の出店資金（募集額:50百万円）
- 第2回募集 極楽湯RAKU SPAファンド#1  
「RAKU SPA Cafe 浜松」改装費用（募集額:50百万円）

**抽選枠倍率10倍以上、先着枠締め切りまで数十秒！好評を博し満額調達**



## 【国内】④「Go To 極楽湯キャンペーン」の実施

19

<8月25日 お知らせ>

現行の株主優待制度に加えて、2020年9月末時点で1単元株（100株）以上保有いただいている全ての株主に対し、今回に限り保有期間の条件に関係なく、極楽湯グループの施設で使える『ご優待券』（無料入浴券）を2枚、贈呈。



# 【国内】⑤店舗の他社商品とのコラボなど

さまざまな他社商品とのコラボ・期間限定イベントを実施（直営30店舗+グループ店2店舗）

## ①TVアニメ「鬼滅の刃」コラボ 2020年7月8日～9月30日



## ②「U 26割キャンペーン」2020年9月19日～22日

26歳以下誰でも!

極楽湯 U 26割 キャンペーン

9/19(土) ~ 9/22(火・祝)

極楽湯入館料	RAKU SPA 1010 入館料
500円 税込	1,000円 税込

詳しくは クリック

## 【国内】⑥エオネックスグループ

21

2020年4月 全株式を取得し子会社化し、資本関係を構築  
6月 当社持分の一部を現経営陣へ譲渡したため 非連結子会社へ

目的：当社グループ店舗の保守メンテナンス対策



### ■株式会社エオネックス

- ・温泉事業  
温泉掘削、メンテナンス、省エネサービス、地熱開発
- ・環境事業  
土壌汚染、地盤調査、地下水調査、大気調査、建物環境調査



### ■株式会社利水社

- ・土地と空間の測量、空中写真撮影・図化

極楽湯グループ



### ■株式会社湯ネックス

- ・温浴施設「祥楽の湯」2店舗の運営

※2020年11月13日現在、株式会社利水社と株式会社湯ネックスの全株式は株式会社エオネックスが保有しております。





## RAKU Cafe 門前仲町



2020年5月、東京都江東区に新業態の店舗をプレオープンしました  
「お風呂のない RAKU SPA」をコンセプトに、今までとは違う切り口の新業態店舗となります

■施設紹介動画！！

クリック→ <https://youtu.be/SAfvwK0wX4o>

# 3. 中国の取り組み

---

## ＜11月13日現在の状況＞

中国店舗は、湖北省武漢市にある金銀潭温泉館を除き、全店営業を再開。

金銀潭温泉館は、中国企業へ経営権を譲渡し、フランチャイズ店舗として2021年1月の営業再開を目指して準備を進めております。

また、全店とも政府の新型コロナの感染状況の管理体制が整っていることから感染は比較的抑えられている状況で再開から来店客数が増えていく傾向ではありますが、寒くなるこれからの季節、春節が終わるころまでの繁忙期を取り逃さないよう、しっかりと対策してまいります。

## 【参考】

＜5月27日現在の状況＞ ※2020年3月期 決算説明資料より

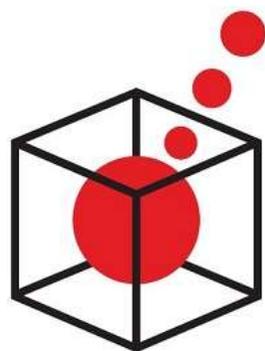
直営4店舗のうち、4月1日より吉林省長春市にある欧亜温泉館のみ、営業を再開しました。再開から緩やかに客数が増えていく傾向でしたが、隣接地域でクラスターが発生したことで、影響が出ております。FC4店舗のうち2店舗が営業を再開しておりますが客数が少ない状況です。ほかの直営店舗でも安全性を確認し、収益性など総合的に判断して営業を再開してまいります。

## 4、(参考)会社概要・国内の温浴業界

---

## (株) 極楽湯ホールディングス 2017年1月1日 誕生

ロゴマーク



「ゆ」から世界を新しく。  
**GOKURAKUYU**  
HOLDINGS

— ロゴマークに込めた思い —

**極楽湯グループは「ゆ」から始まる  
快適癒し空間を創って来ました。**

**今後も、新たな空間創りのため、  
「ゆ」のように温かくも、  
型にはまらず成長し続ける  
私達でありたいと思っています。**

**人への温かさ、優しさ。**

**即ち「癒し」を通じて社会貢献を果たします。**

**日本から世界へ。**

**人や自然との調和を大切に。**

**その先の成長へと向かい、発信し続けていきます。**



## 国内NO.1 温浴チェーン (店舗数日本一)

「極楽湯」「RAKU SPA」ブランドで 国内45店舗(直営30・FC13・グループ2)の温浴施設運営  
《近年の出店状況》

2019年7月 株式会社タカチホより温浴事業(5店舗)を譲受け、直営店としてオープン

2020年4月 エオネックスグループへ資本を入れ、メンテナンスの効率化を目指す  
“祥楽の湯”2店舗がグループに加わる

## 中国で温浴事業 (直営とフランチャイズ展開)

人口世界No.1であり、高度経済成長国の中国に2011年に進出

2013年、上海に海外1号店をオープン。現在直営4店舗運営

《近年の出店状況》

2017年12月 「極楽湯 川沙温泉館」(上海市) (FC店) がオープン

2018年2月 「極楽湯 嘉定温泉館」(上海市) (直営店) がオープン

2018年10月 「極楽湯 博大温泉館」(無錫市) (FC店) がオープン

2018年10月 「極楽湯 嘉定温泉館」をFC化

2019年1月 「極楽湯 欧亜温泉館」(長春市) (直営店) がオープン

2019年10月 「極楽湯 宝山温泉館」(上海市) (FC店) がオープン

2020年11月 「極楽湯 金銀潭温泉館」(武漢市) (直営店) をFC化

(2020年11月13日現在)





「日常生活の延長線上に癒しを提供する」  
をコンセプトに展開する日帰り温浴施設  
直営のほか、フランチャイズ形式で出店



特に若い世代を中心にお風呂と合わせて広々とした  
館内で多くの遊べるコンテンツを盛り込み、癒しと  
遊び心が詰まった、楽しめる温浴施設  
“RAKU SPA Cafe” や “RAKU SPA GARDEN”、  
“RAKU SPA 1010(セントウ)”といった特色ある  
シリーズで出店



国内の平均店舗の約6倍の広さをもつ館内に  
日本の「和」を感じる空間をデザイン、  
国内店舗と同等の衛生管理、癒しなど  
「おもてなし」サービスの提供を目指す。  
直営店のほか、フランチャイズ形式で出店。



## 温浴事業の再強化・拡大

(温浴施設を起点に娯楽二ーズを取り込む)

国内：直営出店＋既存店の補修・改装（進化）

「RAKU SPA」： 滞在型娯楽施設として進化・発展

「極楽湯」： 補修・改装による安心安全・顧客満足度の向上

中国：FC・直営出店＋大規模改装

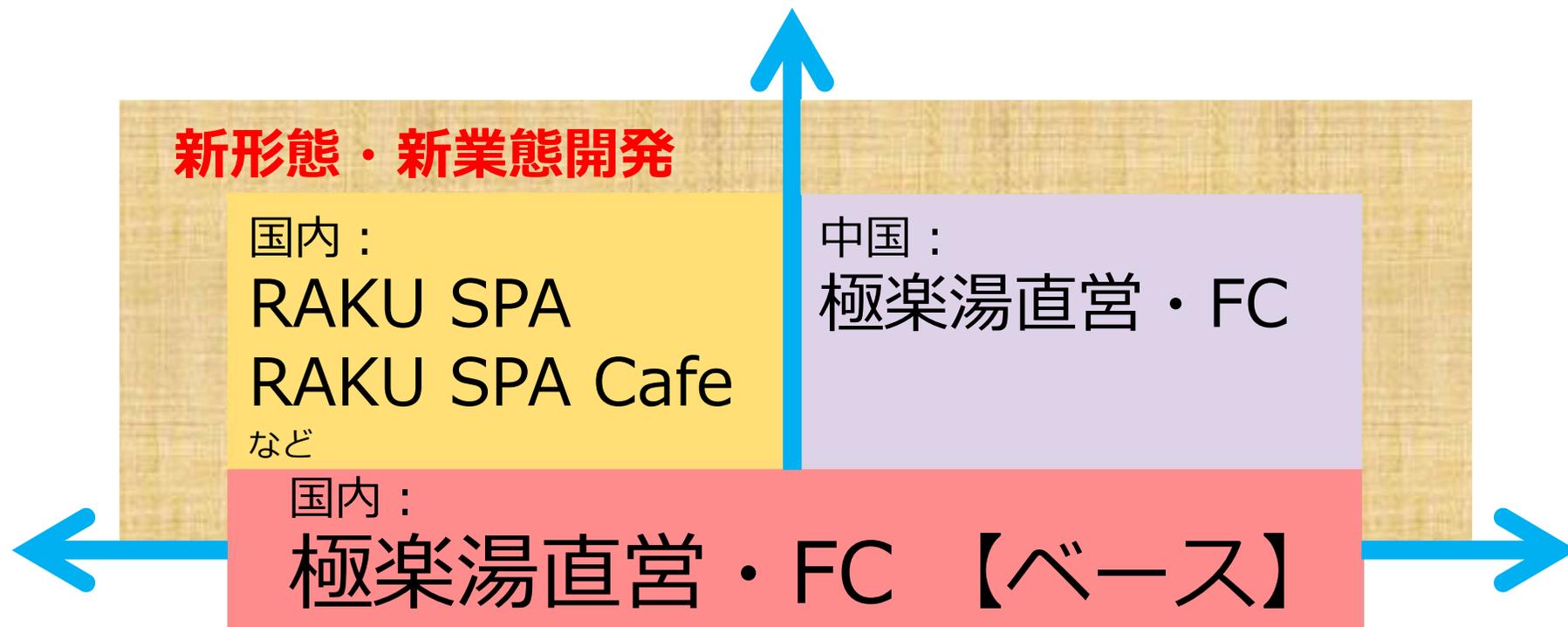
日本式温浴への二ーズは落ちていないが  
さらなる収益拡大に向けた直営店の改装と施策の実施  
現地事業会社とのFC展開・直営出店の推進

## ＋ 新業態開発による既存事業への波及効果

外食事業（第2弾：RAKU Cafe（新しいコンセプトのお店））

# 国内外で市場規模とニーズに合わせて 事業を拡大・推進させていく

温浴施設と付帯施設の展開を軸に売上高増加・収益性の追求



# 入館料金 + $\alpha$ のアイデアで収益機会の可能性大

## 公衆浴場法

### 一般公衆浴場業

#### 銭湯

地域住民の日常生活の  
健康衛生上必要なもの

料金は都道府県が規定  
(物価統制令で入浴料金を統制)  
大人：350円～450円

### その他公衆浴場業

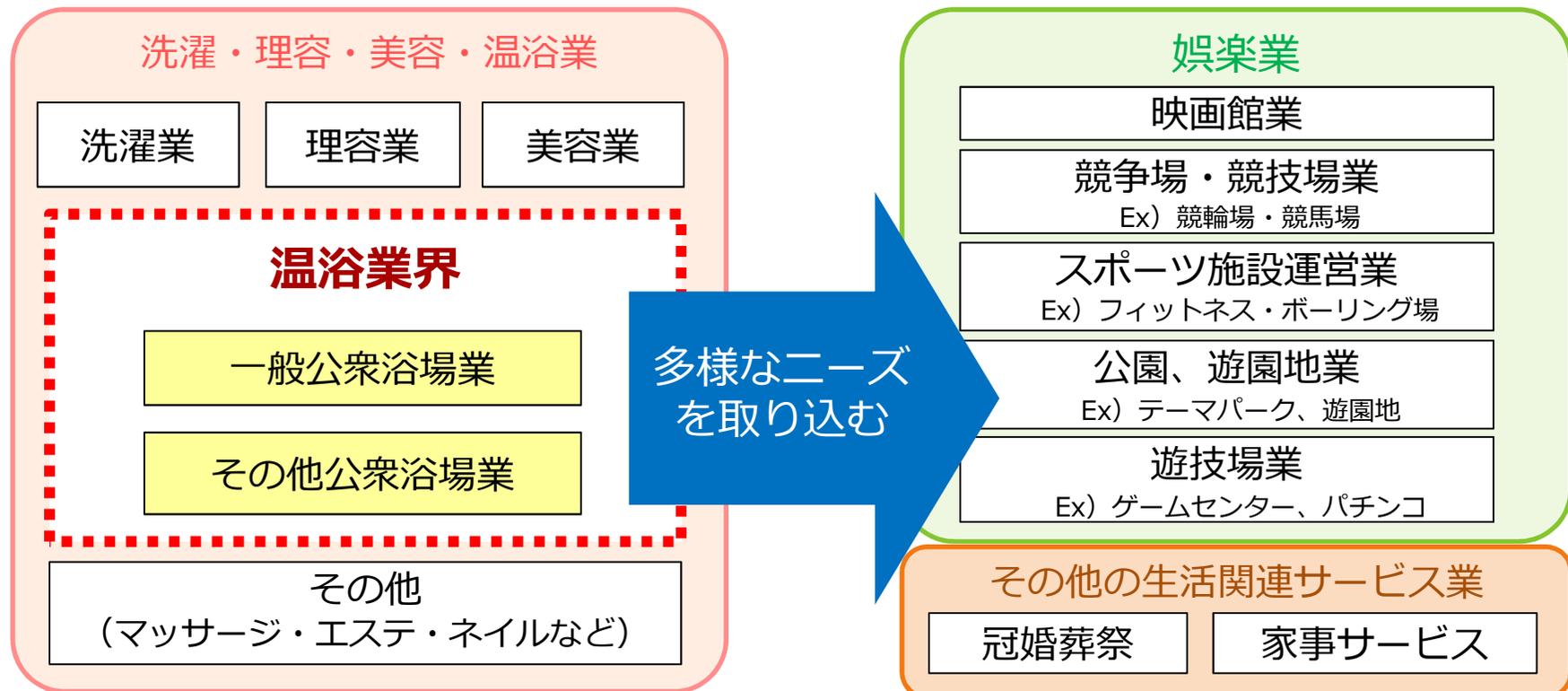
#### 温浴業界

日帰り温浴施設、  
スーパー銭湯、健康ランド  
サウナ、スパ、クアハウス  
など銭湯以外すべて

料金は施設が自由に設定  
(物価統制令の適用外)  
大人：400円～900円が中心

## 若い世代など多様なニーズを取り込む動き

生活関連サービス業、娯楽業（日本標準作業分類）



公衆浴場営業許可施設： **24,785** 施設(2018年度)

うち、一般公衆浴場：3,535施設

1970年占有率：87% ⇒ 2018年占有率：14.3%

(出所：厚生労働省「衛生行政報告例」)

大型レジャー浴場や食事、休憩、娯楽施設も併せ持つスーパー銭湯の増加  
ターゲットを明確にして特色ある施設へと差別化、工夫を一層進める

## 背景

高齢化社会の到来  
健康志向の高まり  
余暇の過ごし方が多様化  
業態のボーダレス化  
緩やかな所得改善

## 当社の展開

テーブル席の増加  
炭酸泉、岩盤浴の導入  
明るい照明、床材へ  
キッズコーナーの充実  
大型温浴施設の出店  
飲食充実、専門店の出店

## 集客・収入・利益の創出

温浴施設（入館料金）

+

## 利益の補完

附帯施設の利用

### 事業の特性

- ・ 装置産業
- ・ 固定費負担重く、償却費も多い
- ・ 固定費を下げることで利益増につながる
- ・ 損益分岐点からのかい離率が大きいと利益が累積的に増加する
- ・ 原油等の市況価額の変動の影響でコストの変動リスクがある

### 事業の特性

- ・ アイディア・サービス
- ・ 変動費比率が高いので、増収→増益に直結しやすい
- ・ 初期投資費用が少なく採算性が見極めがしやすい
- ・ 継続的な採算性チェックが必要

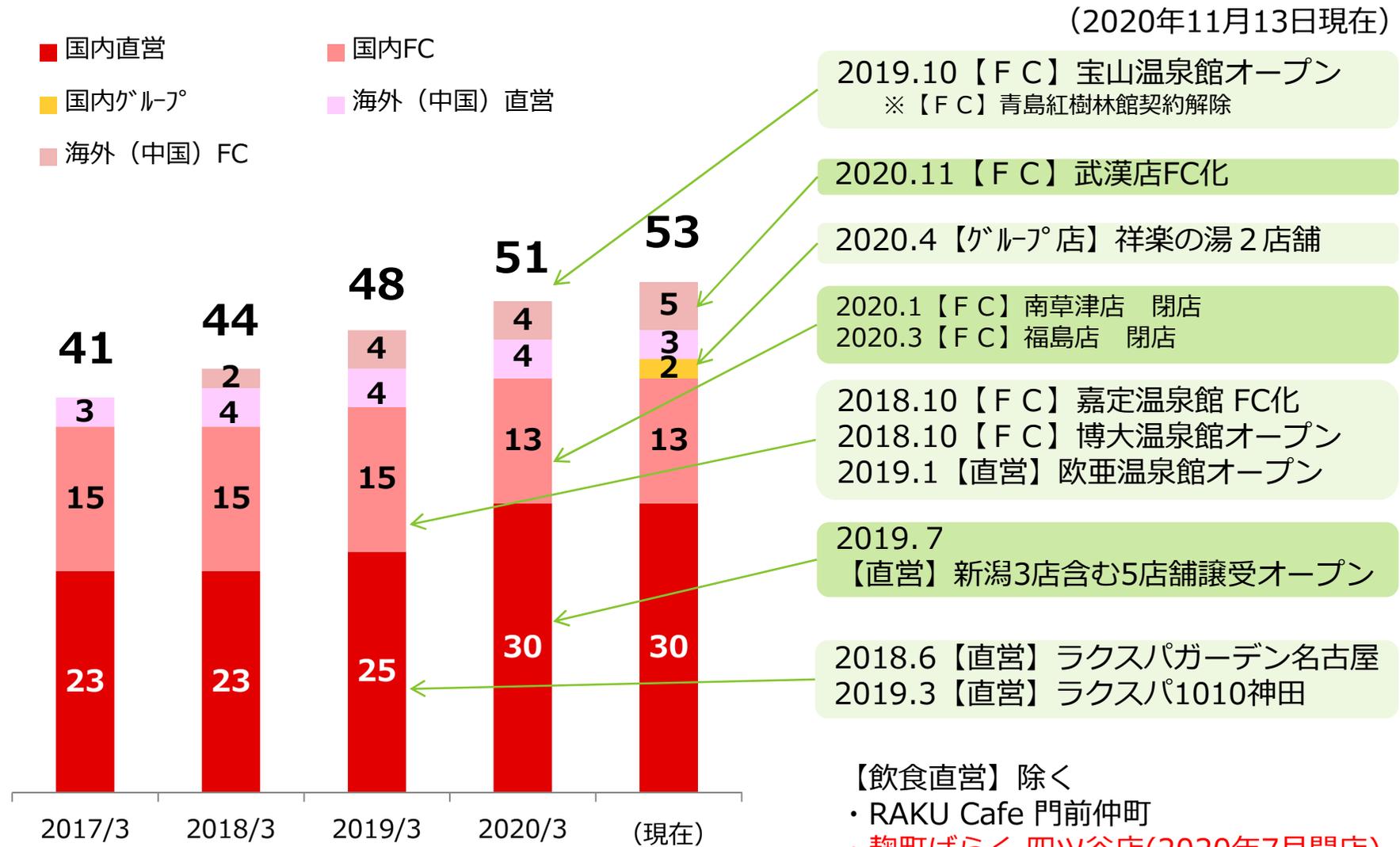
### 収益向上への考え方

- ① 固定費の引き下げ
- ② 集客増による増収効果

### 収益向上への考え方

- ① 生産性を見直し
- ② 稼働率の向上

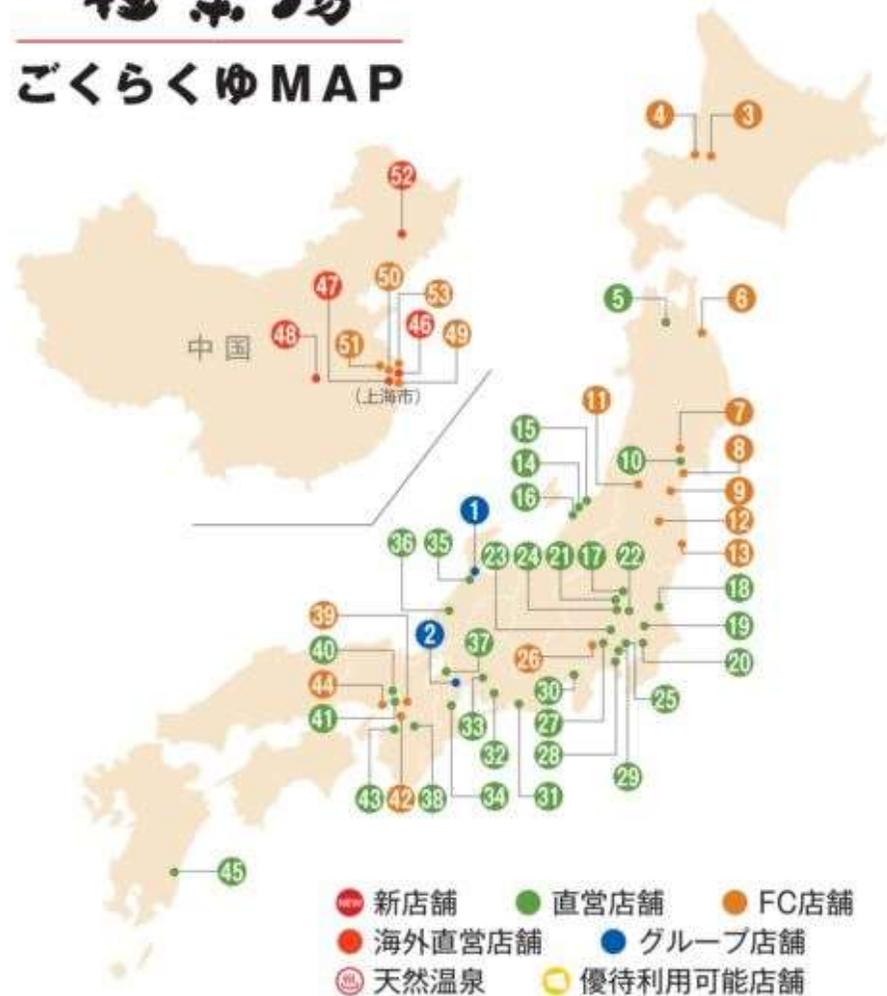
# 店舗展開の動向



- 【飲食直営】除く
- ・ RAKU Cafe 門前仲町
  - ・ 麴町ばらく 四ツ谷店(2020年7月閉店)
  - ・ 麴町ばらく 晴海トリトンスクエア店



## 極楽湯 ごくらくゆMAP



### 直営34

国内 30 海外 3

### FC17

国内 13 海外 5

### グループ<sup>2</sup>

国内 2

# 計 53

(2020年11月13日現在)

注：2020年4月1日にグループ化した「祥楽の湯」2店舗を含む

注：温浴施設以外の店舗を含まない

◆温浴施設 **6.2%** ↘

順位	社名	本社	部門売上高 (百万円)	前年度 比伸び 率(%)	決算 月
1	極楽湯ホールディングス	東京G	14,598	▲8.7	3
2	スパサンフジ (湯葉の里・喜楽里)	東京	10,395	▲0.9	3
3	オークランド観光開発(竜泉寺の湯、スオミの湯、喜盛の湯ほか)	愛知	7,435	▲2.5	4
4	常磐興産 (スパリゾートハワイアンズ)	福島	4,472	▲9.5	3
5	創裕 (ほかほか温泉ほか)	香川	3,472	▲5.2	3
6	東京ドーム (スパ ラクーア)	東京	3,380	2.7	1
7	カケン (喜多の湯)	愛知	3,004	▲0.5	3
8	サンリク (健美の湯)	埼玉	1,826	▲4.2	3
9	コシダカホールディングス (まねきの湯、らんぶの湯)	東京G	1,640	3.3	8
10	エコナックホールディングス (テルマー湯)	東京GF	1,448	1.7	3
11	マンテンホテル (満天の湯)	富山	1,339	33.8	9
12	リラフル (湯花楽ほか)	神奈川	1,312	▲9.0	3
13	亀井工業ホールディングス (湯快爽快)	神奈川	930	▲26.4	9
14	タカチホ (湯ったり苑)	長野	559	▲66.6	3
15	東武食品サービス (かすかべ湯元温泉)	東京	369	▲37.9	3
16	鳴尾ウォーターワールド (リゾート鳴尾浜)	兵庫	172	6.2	3

【温浴施設】スーパー銭湯や大型温泉などを運営している有力企業が対象

**極楽湯グループ  
売上No.1**

※「日経MJ」調べ  
※当社グループの海外売上含む

(「日経MJ」2020年11月11日より転載)

